

# 2025 (R7) シラバス作成ガイドライン

愛知文教女子短期大学

シラバスは、学生の履修科目選択に不可欠な資料であり、授業内容・学習成果・成績評価・準備学習等を示す最大の情報源となります。教育の質保証及び質向上のため、シラバスの重要性と記載内容の一層の充実が求められています。

シラバスの重要性をご理解頂き、本ガイドラインにそって作成していただきますようお願いいたします。

- ① 講義科目名称、開講期間、配当年、単位数、科目必選、担当教員名称、授業クラス（学科、専攻）、科目ナンバリングコード、授業形態

予め入力されているため、変更しないでください。別紙「開講科目のお願い（依頼）」の内容と同じかどうか確認してください。誤りがある場合は、教務課で確認いたしますのでご連絡ください。

- ② 授業概要

授業の全体を把握できるよう、授業内容の概要やねらいなどについて、**である調**でご記入ください。また、当該科目を履修するための履修前提となる科目・課題等の条件がありましたら、各学科・専攻長と相談のうえ、あわせてご記入ください。

- ③ 学習成果【学習成果K、A～F】

当該授業科目の関連する学科・専攻の、別紙「カリキュラム・ツリー」を参照し、学習成果K、A～Fまでの記号を[ ]書きでご記入ください。

学生が当該科目の学習を終えた時に「どのような知識や理解に至り、何ができるようになるのか」について、カリキュラム・ツリーの学習成果と整合性がとれるよう具体的に**である調**でご記入ください。

- ④ DP との関連

シラバスは、実際の授業を通して「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：以下DP）」を実現していく指針を示す役割を果たし、DP と授業内容との関連がシラバス上でより明確となる必要があります。そのため、ご担当の科目が、DP の各項目を獲得するのにどれだけ対応しているのか、その割合（%）をご記入ください。DP の合計が100%になるようにしてください。

DP の項目は、本シラバス作成ガイドの4ページ目にてご確認ください。

【例】食物栄養専攻

食 DP1 : 10 食 DP2 : 10 食 DP3 : 20 食 DP4 : 0 食 DP5 : 20 食 DP6 : 40

- ⑤ 授業計画

原則として授業15週間、通年の場合は30週間について指導項目をご記入ください。実験・実習・実技については、具体的な実習内容、実習時期等もご記入ください。試験は、15週目または30週目を終えた後に行いますので、授業計画には入れないでください。複数回で同じテーマが連続する場合には、それぞれの回の具体的な内容をご記入ください。

学生にとって予習・復習の参考になるように、単位数に応じた授業回数（15回、30回）で、理解しやすい表現で具体的に記入してください。

※ 遠隔授業（オンデマンド（非同期）型）の授業計画について

社会状況等により遠隔授業実施のための学則改正等により整備を行ってきました。そのため、対面授業と同等の学習成果が担保できる遠隔授業（同期型ではなく、オンデマンド（非同期）型）については、15回の授業回数中3回を上限として、実施可能とします。上記⑤授業計画入力の際には、該当授業回に（オンデマンド）とご記入ください。

【例】

授業計画	第1回	家庭を取り巻く環境
	第2回	子ども家庭支援の基本的考え方
	第3回	保育者の専門性を生かした支援・基本的態度(オンデマンド)

	食栄2年	1部1年	1部2年	3部1年	3部2年	3部3年
前期	1	0	2	0	0	2
後期	0	1	3	1	2	3

⑥ 授業方法

授業の進め方について具体的に**である調**でご記入ください。学生が主体的に学ぶことで、学習意欲と学習の定着率を高めるアクティブラーニング（グループ学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、ディスカッション、プレゼンテーション、授業のふりかえり等）を取り入れることが望まれます。アクティブラーニングを取り入れる場合は、この項目の末尾に「アクティブラーニング導入」とご記入ください。

【例】講義が主体だが、ディスカッションやロールプレイング等を取り入れ、さまざまな角度から問題の解決方法を探っていく。アクティブラーニング導入。

実務経験を持つ教員の方は必ず、職種の内容と、実務経験を通じた授業方法をご記入ください。個別に指定させて頂く科目もあります。

【例】～〇〇〇の実務経験があり、実践的な〇〇〇〇の方法で授業を行う。

⑦ 成績評価・フィードバック方法

評価項目ごとに〇〇（△%）、□□（▲%）とし、必ずその割合（%）を記入、合計が100%になるようにしてください。（例参照）「〇〇と□□を総合的に評価」などの表現はしないこととします。実際の成績評価もこの割合に準じてお願いします。

【例】試験（70%）、課題や授業への取組状況（30%）

出席率は、成績評価の対象にはなりません。「出席・参加（30%）」等、使用しないようにお願いします。授業参加への積極性は、成績評価に加味することができます。

※ 講義科目の場合、必ず試験を実施してください。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法を**である調**で記載して下さい。

【例】・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

- ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは teams を通じて行う。
- ・オフィスアワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

⑧ 教科書

使用する教科書をご記入ください。別紙「教科書調査票」と同一の内容にしてください。使用しない場合は、「特になし」とご記入ください。

⑨ 参考書

授業の理解を深めるため、予習・復習のために必要な、教科書以外の参考書がありましたら、ご紹介ください。

⑩ 準備学習（予習・復習）

授業に参加する際に準備するものや、予習(授業に問題意識をもって臨めるようなもの)・復習の内容と、それにかかる時間の目安についてご記入ください。

また、末尾に「(履修案内の「準備学習（予習・復習）(P1)」を参照)」の一文を追加してください。

授業(教室)時間外学修

大学設置基準第21条では、1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められています。したがって、授業(教室)時間外の必要な学修(予習・復習等)は、例えば、半期1単位の演習の場合、2時間(実時間では1コマ90分)の授業について1時間(実時間では半コマ45分)を行うことになります。②授業(教室)外学修に必要な時間、及び具体的な学修内容についてご記入願います。

【例】：「毎授業後に示すレポートを提出すること。また次の授業前には、〇〇時間(分)程度、前回の授業の内容を見直しておくこと。」

「毎授業前または夏期休暇等を利用し集中的に、〇〇時間(分)程度は、関連する分野のテレビ、インターネット、雑誌等にふれ、問題意識を持って授業に臨むこと。」

「授業後には、〇〇(分)程度の復習として課題についてレポートを作成すること。」

(履修案内の「単位と授業時間 (P1)」、「準備学習 (予習・復習) (P2)」を参照)

⑪ 備考

- ・参考になるWebページの紹介などをご記入ください。
- ・地域での活動、地域住民との活動等が含まれている場合は、地域志向科目とご記入ください。